

《沖縄協同病院の理念》

- 患者様に信頼され、質の高い安全・安心な医療をめざします。
- 人権を尊重し、納得のいく説明と同意、情報開示を提供します。
- 地域と連携し、総合的な医療・福祉・介護の提供に努めます。



沖縄協同病院・病院広報委員会

豊見城市字真玉橋 593 番地の 1

TEL.(098)850-7951

http://oki-kyo.jp

E-mail:okikyo02@crocus.ocn.ne.jp

発行責任者 西銘圭蔵

新病院建設の進捗状況③④

(新病院建設工程について)



11月18日時点で、躯体関連工事では東側工区、中央工区は8階まで終了し、西側工区3階部分を残すのみとなりました。外壁タイル貼りも着々と進んでいます。

11月25日には看護師長15人で現地モデルルーム(4床部屋と1床部屋各1部屋ずつ)を見学しました。

12月以降は、1階床シート貼りや壁クロス貼りなど内装工事も進み、内部の見た目もさらに病院らしくなってくると思います。高額な医療機器業者も徐々に選定されていきます。

12月以降は、1階床シート貼りや壁クロス貼りなど内装工事も進み、内部の見た目もさらに病院らしくなってくると思います。高額な医療機器業者も徐々に選定されていきます。

12月9日(火)には躯体関連工事はほぼ終了する予定です。工事関係者の頑張りや天候にも恵まれ、工程も予定より約1カ月早く進めることができました。工事に後れを取らないよう、運用面も並行して進めて行くことが必要です。

追伸、11月1日付で回復期リハビリ病棟の理学療法士から新沖縄協同病院開設準備会事務局に異動になりました。当山と申します。今後ともよろしく申し上げます。

新病院開設準備会 事務局 当山浩三

第6回 沖縄医療生活協同組合

健康まつり 開催

11月24日、漫湖公園において「第6回健康まつり」が開催されました。朝から職員、組合員による健康チェック、体力測定、グラウンドゴルフ、今回初の取り組みとなったトリムウォーキング、子供コーナーでの乗馬体験など多彩な催しに多くの組合員さん、地域住民の方々でにぎわいました。



また東村高江・辺野古での新基地建設阻止行動の紹介コーナーもあり、医療生協のスローガン「健康をつくる、平和をつくる」に沿ったまつりとなりました。残念ながら午後の舞台の部の途中で大雨となり、準備していたプログラムは中止となってしまいましたが、新病院開設後のまつりに繋がるとりくみになりました。ご協力された皆さん、ありがとうございました。

事務次長 比嘉義信



介護保険の公費負担をもっと増やしてほしい

36 介護をしている立場から

- 主旨
- * 公費負担をもっと増やしてほしい
- * 利用料1割負担は大きい
- * 利用したい方がいつでも利用できる制度にしてほしい

八六歳の母を介護しています。要介護3で痴呆が大分進んでいて、介護保険は限度額いっぱい利用しています。利用料は月平均二六、〇〇〇円〜三〇、〇〇〇円ほどです。二〇〇五年でしたか居住費・食費が介護の適応外にされるまでは二万円以内でした。母の年金で支払っています。毎月はとも払えないので年金のおりる月にまとめて支払っているのが現状です。

お金のこともそうですが、制度が変わったことも問題です。夕食はこれまで、一時間サービスをうけていて、夕食を作り食べ終えるまで見守りをしてもらっていたのですが、自立支援でサービスが三〇分に減らされました。認知症の母は最期まで見守りしないと食事をしていないことが多いのですが、私が仕事を終えて九時・一〇時頃戻ると食事がそのまま置かれていたこともあり、それから食べさせたり、遅いときは夕食ぬきで寝かせていることもあります。

家族が面倒を見ることができれば一番いいと思います。働かなければ生活できない、食べていけないので介護保険制度を利用しています。身近には一割の自己負担が払えなくて介護が受けられない、利用回数を減らさざるを得ない方が多く見られます。お金があるなしに係わらずサービスが受けられるようにすべきです。



組合員 宮城寛詩

院長の頭の中 その29

～一年を振り返る～

- この一年も、10人の研修医入職やDPC導入等いろいろあった。とりわけ、後半は、医療の安全について考えさせられる毎日であった。
- 11月末に第三回医療の質・安全学会があった。最終日は、医療安全全国共同行動「いのちをまもるパートナーズ」、第一回全国フォーラムが開催された。学会と医療安全全国共同行動推進会議の共催である。後援団体として、厚生労働省、日本学術会議や医療系学会・団体が網羅されている。あきらかに、この間の「医療崩壊」が背景に横たわっている。
医療事故当事者(医療従事者と患者)の発言があった。いずれも、苦悩の大きさと再生への希望が述べられた。
- 年間医療事故500万件、医療関連死亡者10万人のアメリカから、医療事故防止キャンペーンの成果をもって参加したコンウェイ医師に聞いてみた。「アメリカでは、医療事故で刑事事件になることはなく、職場では当該者を皆でサポートする」という。
二度と起こさないために、遠慮することなく「Speak out(声をあげる)」を促すためである。
- 来年は、待望の新病院が完成する。医療活動の発展のために、「Speak out」を合い言葉にしたい。

院長 西銘 圭蔵

1年間を振り返って!

2月・新病院建築始まる

4月・新入職員54名入職

・怒りの後期高齢者医療制度始まる

・「はいさい」がカラー版になる

7月・小児科医、白衣からかりゆしウェアに

・組合員証がカードになる

9月・内科教育病院に認定される

・上原昌義医師、副院長に任命

11月・午前、午後とも
院外処方箋発行になる

・かりゆし会(糖尿病患者会)30周年祝賀会開催

・第6回健康まつり開催

12月・新病院躯体工事完了



新入職員54名入職



白衣からかりゆしウェアに

今年定年退職しました。今後もよろしくお願ひします。
上原和博医師、新田宗秋医師、伊良波肇医師、真栄城守克医師

糖尿病患者会(かりゆし会)30周年迎える

～30周年を迎えた病院と患者の協同の輪～

糖尿病患者会「かりゆし会」が結成30周年を迎え、祝賀会を11月1日(土)にロワジュールホテルで行いました。

参加者は患者会会員、病院職員、他の患者会代表など47人でした。祝賀会は伊集勝子会長の挨拶で始まり、喜久本先生の乾杯の音頭で唱和した後、食事タイムに入りました。ご祝辞は西銘病院長にいただきました。そして歴代の糖尿病グループの先生方として仲西先生、伊集先生、嵩原先生、嘉陽先生そして看護師、栄養士、薬剤師の方々には一言ずつの短いご挨拶をいただきましたが時間の都合上で誠に申し訳ありませんでした。

当日の目玉は特別講演の「笑いと東洋医学」の演題で講師は喜納達也先生に語っていただきました。先生の一挙一動に会場は笑いの渦。糖尿病と毎日戦っている私たちにはそれが元気の一助になりました。

余興は琉舞と日舞で華を添えてもらい、また「スライドで見るかりゆし会のあゆみ」を上映しました。

感謝状贈呈は当会役員を長らく務めた2会員に与えられました。最後に全員でカチャーシーを踊り、終わりの挨拶、記念撮影で全日程を無事終了することができました。それは病院と患者会の協同の輪のお陰です。感謝!!



かりゆし会
副会長 城間 健



虹の箱とは患者さまの声を医療活動に反映させていくための投書箱です。

ご意見・ご要望

せっかくウォッシュレットを取り付けているので、便座クリーナーも付けてほしい。

ご返事

便座クリーナーの要望は以前にもありましたので、今回、1階2階の各トイレ内に設置しました。消毒液をティッシュに吹き付けて便座をふいていただく手軽なものです。どうぞご利用ください。設置が遅れましたことをお詫びします。



便座クリーナー

総務課長 金城 稲子



★ダイエットウォークを取り入れたストレッチとウォークです。

(12月の日程)

3日、10日、24日(水)

問い合わせ
総務課 金城(内線310)

場所: リハビリ室
時間: 18:30~20:00

※途中参加、退出できますので、お気軽にご参加ください。



総務課 金城 稲子

昔の沖縄には魔物が多かったのか、シーサーや石敢當、サン等の魔除けが作られているが、現在ではもっと大きい「大魔」がはびこっている。沖縄の四隅にサンを立てて侵入を防がねば...

サンはススキの葉をぐるぐる回して結ぶだけで作れる。そのため、サン名の由来は「イチ、ニイ、サン」と簡単にできるからとの冗談を言う人もいる。ススキがない時は、割り箸の袋や紐でサンを作った。現在はストラップ等にして観光土産店に並んでいる。
サンは、シーサーや石敢當と同じく魔除けとして使われる。もともとの起源は旧暦八月の門飾りからとも言われる。昔は八月の十日頃は魔物が徘徊する時期だと言われ、八月九日から三日間はススキと桑の葉を二つ三本束ねて十字に結び家の四隅にさして行う「シバサシ」という行事を行った。竹富島に「シバサシ」の言い伝えがある。昔、ニライカナイから害虫を舟に積んできた神がいた。島の人が親切に水路を導いてくれたのでお礼に「畑の四隅にサンを立てておけば害虫は入らない」と教えた。そこで島中の畑にサンを立てて害虫の侵入を防いだ。という。

地域の文化遺産 9

幼い頃、祖母の家から夜帰るとき、必ずススキでサンを作り、手土産の食べ物の上に置いていた。サンを置かないと食べ物に魔物が取り付いて腐れたり、栄養分がなくなるということだった。